

今季9月10日までに生まれた 70歳以上の日本新&よろず雑学

暑くて“まいった”の猛暑が影を潜め、秋の季節の神無月。10月は7日から9日まで全日本マスターズ陸上競技選手権が行われたが、競技の結果は次号でお知らせの予定。今月は4月から9月上旬までに70歳以上の日本新記録樹立者と、マスターズ創立時から10年以内における調査資料からマスターズの会員数などを見てみた。

写真／中野英聡

今シーズン申請があった 70歳以上の日本新記録

日本マスターズ陸上競技連合事務局に4月以降、9月10日までに申請のあった70歳以上のクラス別日本記録樹立者は別表の通り。

日本記録樹立者の中にM85・立五段跳で9m49の新記録を出した櫻井孝次さん（87歳・茨城）の名前があった。M85・立五段跳の従来の日本記録は9m30で、櫻井さんは19cm更新した。

櫻井さんといえば知る人ぞ知る、かつての三段跳の名手だ。現役時代は16m18（1963年）をベストに、1956年メルボルン、60年ローマ、64年東京と3回連続五輪に出場した。

立五段跳は昨年の茨城マスターズ陸上に次いで2回目で「1年前より10cm伸びたよ」と笑顔。普段は近くの利根川河川敷で「体を動かしている」とのこと。立五段跳は「三段跳は助走をつけないといけなし、助走して跳ぶとケガする可能性があるので危ない。その点、立五段跳は助走なしでいけるので」と安全性を語る。

往年、日本陸連や実業団の要職に就いていた櫻井さん。また、機会があればマスターズの場に出てきてほしい。

記録を出された人のなかで、すごいのは男子では黒崎弘明さん（90歳・新潟）だ。4月30日に高岡市宮城光寺陸上競技場で開かれた第19回春季富山マスターズ陸上大会でM90で砲

丸投8m18、円盤投21m56、やり投21m75と、3種目で日本新をマークした。

これだけではない。5月14日の新潟マスターズ陸上選手権（長岡）では砲丸投で8m23と記録を伸ばし、ハンマー投で25m35と2種目で日本新を達成。ご本人の90歳、いわゆる卒寿の祝いをするかのように計5回も記録更新を果たした。ただただ脱帽だ。

このうちM90・やり投は2022年に平田数秋さん（愛媛）が20m78の日本記録をつくったばかり。黒崎さんは今回21m台に乗せた。また、円盤投においては21年度記録集によると、以前、高齢者で名を馳せた木村喜三さん（群馬）が90歳のときに19m46を投げていた。記録を出したのは01年。実に長い間破られていなかった円盤投レコードが、ここにきて書き換えられた。

女子ではスプリント種目でW95の

スプリンターがそれぞれ新記録を出した。川本静子さん（広島）は6月11日の広島マスターズ陸上選手権で60m17秒33、100m28秒85、200m1分18秒08と短距離3種目で日本新記録を一気に出したのだ。

従来の記録は21年度記録集によると、60mが10年につくられた19秒35、100mが35秒48でこれも10年に出されたもの。200mは1分19秒96でいずれも大幅に更新された。それにしても川本さんのパワーには驚かされる。

もう一人の早川武子さん（岩手）は60mと100m。100mは6月18日の第42回岩手マスターズ陸上選手権で30秒77と川本さんの28秒台には及ばないが、35秒台の公認記録より上回る。60mは7月30日の第39回東北マスターズ陸上選手権で出したもので18秒13。こちらも川本さんの記録より下回るが、19秒台の旧記録よりは上だ。



6月の日本選手権に出場した岩間和子さん（左から2人目）は、翌7月にW80の2種目で日本記録を樹立した

2種目で新記録といえば、クラスは違うがW80の岩間和子さん（東京）も60mと100mでニューレコードを記した。60mは10秒72と旧記録の11秒10を消し、100mは17秒25で17秒68を更新。今までの記録は、あの中村紀子さん（神奈川）が両種目とも19年にマークしていた。

中村さんは19年の第40回記念国際・全日本マスターズ陸上選手権で60m、100m、200mを制したW80クラスのスプリンター女王。同選手権で60m 11秒10、200m 39秒14と、2つの日本新をマークしていた。

マスターズ陸上の調査資料から各都道府県の会員数は？

このほど日本マスターズ陸上の実施状況を調査した資料が見つかった。調査は1989（平成元）年2月1日に、当時の競技委員会委員長の山田章さん（東京）がまとめたもの。

今頃そのような古い調査資料はと思われるかもしれないが、80（昭和55）年にマスターズ陸上が始まり、88年度までに発展してきた内容を知るのも一興かと。

まずマスターズ登録会員数の都道府県別では①東京496、②沖縄244、③千葉213、④大阪200、⑤神奈川188、⑥群馬・兵庫168、⑧静岡162、⑨岩手160、⑩長崎155、⑪和歌山・広島130、⑬山口116、⑭秋田112、⑮福岡111、⑯埼玉101、⑰富山・石川・徳島100、⑳鳥根84、㉑北海道80、㉒青森・新潟72、㉔佐賀71、㉕茨城70、㉖山梨58、㉗岡山56、㉘大分54、㉙愛知51、㉚京都50、㉛鹿児島49、㉜宮城・熊本48、㉝奈良45、㉞香川41、㉟山形40、㊱栃木35、㊲高知34、㊳愛媛33、㊴鳥取・福島・宮崎30、㊵滋賀22、㊶福井8、㊷長野6、㊸岐阜・三重4（数字は人数）。

以上、全国総会員数は4379人。一県当たりの平均会員数は93.2人。

47都道府県のなかで資料提出は42地区（90%）、自らの都道府県で大会を実施しているのは29地区で、実施

率は61.8%と高い。未実施は13府県で27.6%だった。

ただし未実施地区についても府県外での全日本大会や地区大会には参加している。

各都道府県の大会参加料は？

各都道府県の大会参加料については宮城と和歌山が無料。ほかは1000円から3000円までまちまち。また種目が1種目から3種目までであるので、都道府県でそれぞれ金額は違うが、抜粋してお知らせすると――。

北海道は1種目3000円で、2種目出ても3種目に出場しても3000円。青森は1種目1000円で、ここも2、3種目すべて出ても1000円のまま。岩手は2000円で3種目までいけるが、リレーは別途に2000円。秋田は1種目2000円、2種目は3000円で3種目まで同じ。

関東地区の群馬と埼玉はすべての種目に出場しても1000円統一となっている。ただ埼玉はリレーが1000円。千葉、東京は1種目1500円だが、2種目の場合は2000円、3種目になると2500円で、リレーになると2000円だ。神奈川は2種目まで1500円、3種目になると2000円となり、リレーは2000円。

関西地区では奈良の参加料金は低額で1種目は500円。2種目が800円、3種目で1000円。大阪と兵庫は同金額で1種目2000円、2種目3000円で3種目4000円となっている。兵庫の場合だけは1リレーに別料金4000円となっている。

上記以外の地域の各県については割愛させていただいて、ほかに各都道府県のマスターズ大会の役員数、年齢別参加数などの調査もされているが、スペースの都合で以後、機会を見て掲載したい。

2023年4月以降の日本記録樹立者（70歳以上）

（男 子）

クラス	種目	記録	選手名	月日
M70	60m	8秒28（+1.0）	新居田哲司（70歳・愛媛）	09/03
M70	※棒高跳	2m80	池田 康博（71歳・埼玉）	04/16
M75	200m	29秒17（+1.0）	相羽 吉男（75歳・東京）	06/18
M85	立五段跳	9m49	櫻井 孝次（87歳・茨城）	06/25
M90	砲丸投	8m18	黒崎 弘明（90歳・新潟）	04/30
M90	砲丸投	8m23	黒崎 弘明（90歳・新潟）	05/14
M90	円盤投	21m56	黒崎 弘明（90歳・新潟）	04/30
M90	やり投	21m75	黒崎 弘明（90歳・新潟）	04/30
M90	ハンマー投	25m35	黒崎 弘明（90歳・新潟）	05/14
M95	立五段跳	6m28	片岡 弘（95歳・奈良）	09/10

※は室内競技

（女 子）

クラス	種目	記録	選手名	月日
W70	100m	15秒51（+1.6）	藤井 恵子（70歳・鹿児島）	07/23
W80	60m	10秒72（+1.0）	岩間 和子（80歳・東京）	07/08
W80	100m	17秒25（+0.5）	岩間 和子（80歳・東京）	07/08
W80	3000mW	22分00秒42	松本 初枝（81歳・千葉）	04/30
W85	5000mW	46分52秒64	阪田八重子（85歳・京都）	06/17
W85	円盤投	14m13	中世古房子（85歳・三重）	08/20
W95	60m	18秒13（+0.9）	早川 武子（95歳・岩手）	07/30
W95	100m	30秒77（-0.4）	早川 武子（95歳・岩手）	06/18
W95	60m	17秒33（-1.1）	川本 静子（95歳・広島）	06/11
W95	100m	28秒85（-0.6）	川本 静子（95歳・広島）	06/11
W95	200m	1分18秒08（-1.4）	川本 静子（95歳・広島）	06/11